

(別紙)

提出書類の区分	■温室効果ガス排出抑制計画書 □温室効果ガス排出抑制計画書(変更)				
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)	宮崎県日向市船場町5番地				
氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	株式会社 日向製錬所 代表取締役社長 武本 拓也				
主たる業種	22 鉄鋼業				
事業概要	ステンレス鋼の原料となるフェロニッケルとその副産物であるグリーンサンドの製造				
事業者の区分	■みやざき県民の住みよい環境の保全等に関する条例施行規則第9条第1号に該当する特定事業者 □同規則第9条第2号に該当する特定事業者 □同規則第9条第3号に該当する特定事業者 □同規則第9条第4号に該当する特定事業者 □特定事業者以外の者				
計画期間	2022年度 ~ 2024年度				
排出状況及び目標	目標設定の方法	基準年度の実績① (2021)年度	前年度の実績 ()年度	目標年度② (2024)年度	増減率 (②-①)/①×100
	総排出量	337,465 (※422,181) t-CO ₂		403,066 t-CO ₂	+19.4 (※-4.5) %
	原単位の排出量	0.600 (※0.733) t-CO ₂		0.696 t-CO ₂	+16.0 (※-5.0) %
原単位の考え方	フェロニッケル+スラグ生産量(t)				
目標達成のための基本方針	原単位ベースでのCO ₂ 排出量抑制				
目標達成のための推進体制	・生産部長を中心とした安定操業の維持並びに目標生産量の必達 ・各種会議体にて月次ベースでの進捗確認				
目標達成のための措置の内容	・電気炉での低還元度操業実施。 ・低還元度操業による還元剤使用量の抑制。 ・生産に関する設備の安定稼働。 ・代替エネルギーの検討・使用。				
特記事項	・当社の中長期計画策定年度と計画年度を揃えるため、今回の抑制計画書の計画年度は3ヶ年度分とした。 ・今回、基準年度とした2021年度の実績原単位は、天候不良による原料鉱石入荷困難の影響により、当社が通常処理している鉱石とは異なる組成の鉱石を処理した影響により、2021年度予算原単位(※印				

	<p>で記載した数値)より大幅に低下した。そのため、2021年度実績原単位を基準とすると、目標年度である2024年度は総排出量も原単位も増加してしまう。</p> <p>しかし、※印の2021年度予算と比較すると、総排出量、原単位共に減少しており、当社の省エネ並びにCO₂排出量削減の取り組みが適切に反映されることとなる。</p> <p>今後も外部要因によりCO₂排出量は増減する可能性はあるが、当社としては、引き続き、省エネ並びにCO₂排出量削減の取り組みを継続する。</p>
--	---

- 備考 1 「基準年度」は、原則として計画書を提出する年度の前年度とすること。ただし、提出者が別に基準となる年度を定めている場合は、当該年度を基準年度とすることができる。
- 2 提出者の計画が温室効果ガス排出量削減に向けた取組であるにもかかわらず、事業拡大等の理由により温室効果ガス排出量が増加する見込みである場合は、原単位による目標を設定することができる。この場合、「原単位の排出量」とは、「総排出量」を当該年度の生産数量、建物延床面積その他の温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値で除して算出した値とし、併せて「原単位の考え方」についても記入すること。